

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	淀川区
学校名	大阪市立三国小学校
学校長名	仲田　弘伺

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・三国学校では、第6学年 131名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本校児童の平均正答率は、大阪市や全国の平均正答率に比べ、国語科は上回る結果となった。しかし算数科は大阪市・全国ともほぼ等しい結果となっている。理科は大阪市の平均と同じであるが、理科は2ポイントほど下回った。設問ごとの正答率について、国語科「A 話すこと・聞くこと」「C 読むこと」は大阪市・全国を上回っているが、「B 書くこと」で全国平均を下回っている。国語科では「B 書くこと」(+4.8) 「(3) 我が国の言語に文化に関する事項」(+11.6)、算数科では、「A 数と計算」(+1.5) 「B 図形」(-1.9) 「C 変化と関係」(+4.1) と大きく上回った。また、本校児童の平均無回答率は、全国と比べ国語科で-0.5ポイント、算数科は-0.3ポイント、理科は-0.7ポイント下回っており、わからない問題でも粘り強く、自分の考えを書いている児童が多いことがうかがえる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕 本校児童の平均正答率が、特に全国平均を上回っている分野は「情報の扱い方に関する事項」「C 読むこと」であるが、地域ボランティアによる読み聞かせや本校図書館司書と連携した並行読書を行ったり、単元で身に付けた力を生かして、調べたことや分かったことをリーフレットや新聞などにまとめたりする活動を積み重ねてきた成果であると思われる。また、淀川区学力向上事業「漢字名人育成計画」を活用し、漢字検定試験に取り組んだことで、語彙力が向上していることも影響していると考える。今後は、全国の平均正答率を下回った「B 書くこと」に関する力を高めるために、考えを交流する場を設けて、目的や意図に応じてまとめる活動を積ませていく必要がある。

〔算数〕 本校児童の平均正答率が、全国平均を5分野中3分野で上回った。これは、本校が研究教科を算数と定め、「対話的な学びを通して、自他の考え方を見つめなおせる子どもの育成」をめざし、「学力向上支援事業」によるスクールアドバイザーからの授業改善に関する巡回指導を行った成果である。また、習熟度別少人数指導に取り組み、教員が個々に応じた支援を続けた結果でもある。今後も継続して取り組み、児童の活動を支援していく。

質問調査より

児童質問紙より、「学校に行くのは楽しいですか」という質問に対して全国平均を大きく上回っている。友だちや教員との良好な関係が見て取れる。常に子どもたちの細かな変化に気を配り、声かけを心がけている成果である。「自分には、よいところがあると思いますか」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の両項目で肯定的な回答が、全国を上回っている。道徳の学習を工夫したり、「三国小学校の人権教育」を進めたりしたことや、児童の自己肯定感の高まりがみられた。また、一人一台端末のスクールライフノートの「心の天気」「相談機能」の積極的な活用により、児童の不安や困りごとに素早く対応してきた成果が表れている。

また、学校質問用紙の項目内容については、「授業研究や研修」を重視し、「より良い授業」をめざし、「児童の一人一台端末の活用推進」「S CやS S Wとの連携」といったことによる本校児童への働きかけが見て取れる。

今後の取組(アクションプラン)

本校で研究している「自分の考えを広げ深めることができる指導法の研究」を今後も進めていき、国語科や算数科を軸に各教科へ実践を広げ、児童の自己肯定感や話し合う力を高めていく。また、経験が浅い教員を中心とした研修や公開授業も継続して取り組み、教員の指導力向上を図っていく。

I C T機器の更なる活用のために、I C T次世代サポートによる環境整備を推進していく。さらに、スクールサポートスタッフ、学生ボランティアの活用や行事の精選を進め、教職員の業務の軽減もしていく。児童や教職員が、心身ともに安全・安心に過ごせる学校を作っていく。

【 全体の概要 】

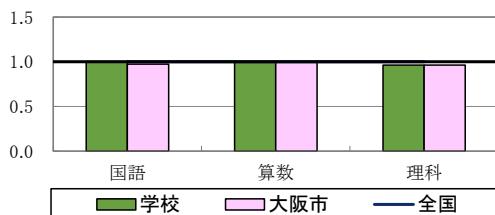
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	67	58	55
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

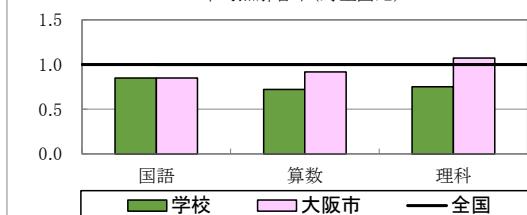
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	2.8	2.6	2.1
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



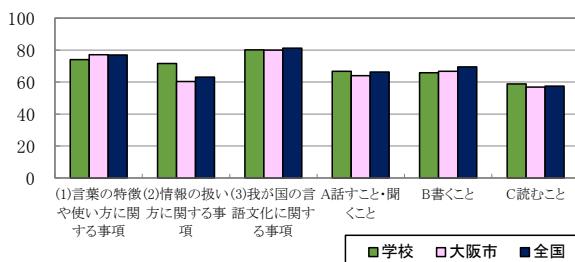
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	74.1	77.1	76.9
(2)情報の扱い方にに関する事項	1	71.6	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	80.2	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	66.7	64.0	66.3
B 書くこと	3	65.8	66.7	69.5
C 読むこと	4	58.8	56.9	57.5

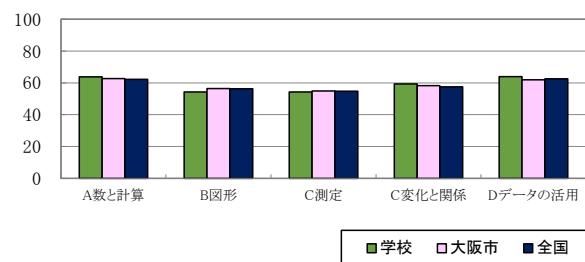
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	63.8	62.7	62.3
B 図形	4	54.3	56.4	56.2
C 測定	2	54.3	54.9	54.8
C 変化と関係	3	59.3	58.2	57.5
D データの活用	5	63.9	61.9	62.6

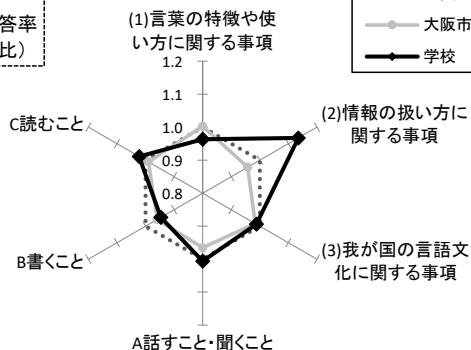
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



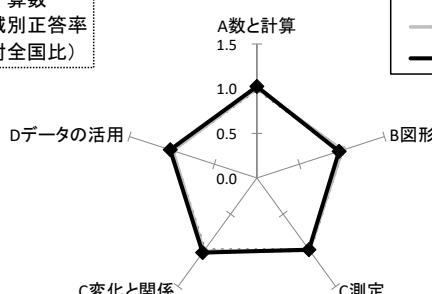
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

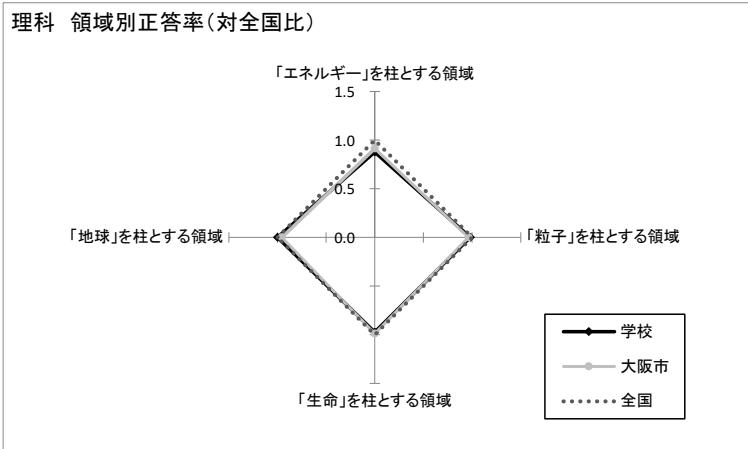
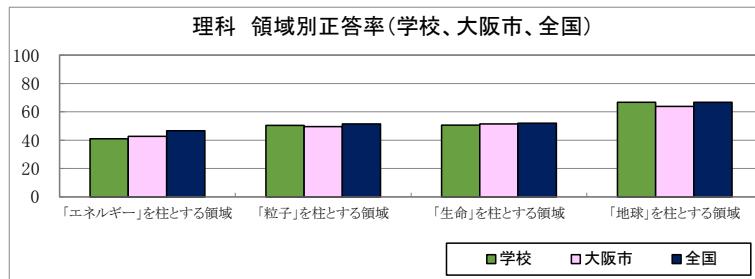


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 分 区	「エネルギー」を柱とする領域	4	41.0	42.7	46.7
	「粒子」を柱とする領域	6	50.4	49.5	51.4
B 分 区	「生命」を柱とする領域	4	50.6	51.4	52.0
	「地球」を柱とする領域	6	66.7	63.8	66.7



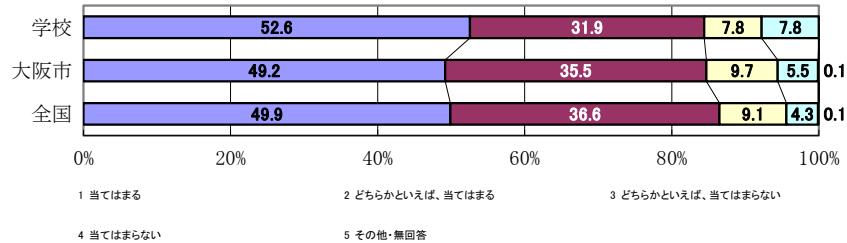
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

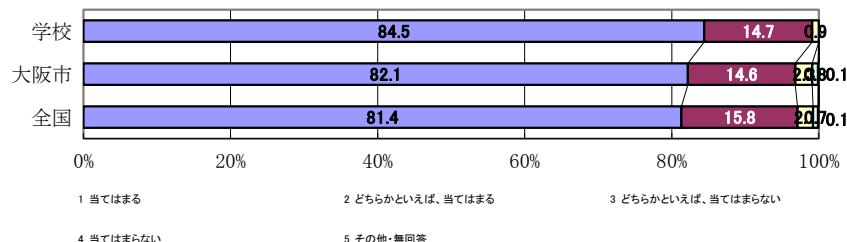
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



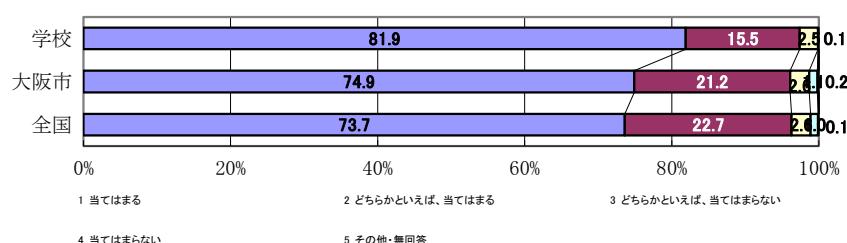
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



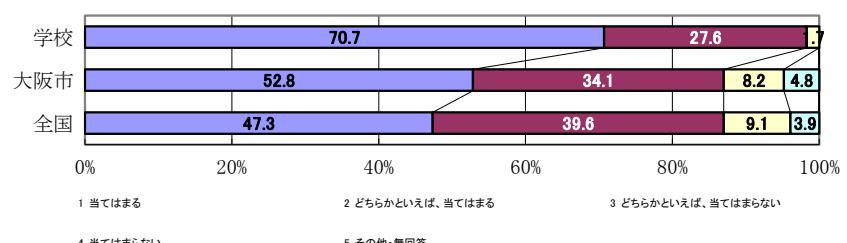
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



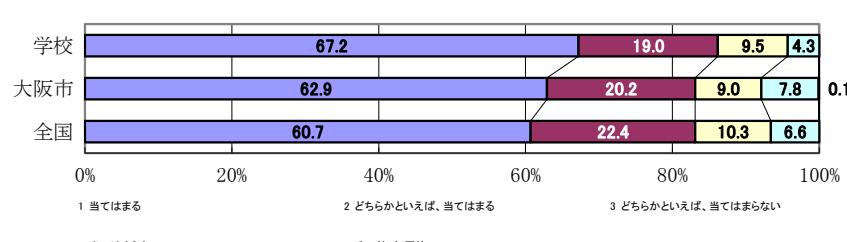
5

自分には、よいところがあると思いますか



7

将来の夢や目標を持っていますか



学校質問より

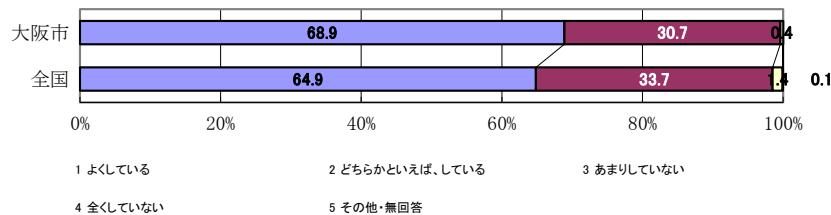
■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか。

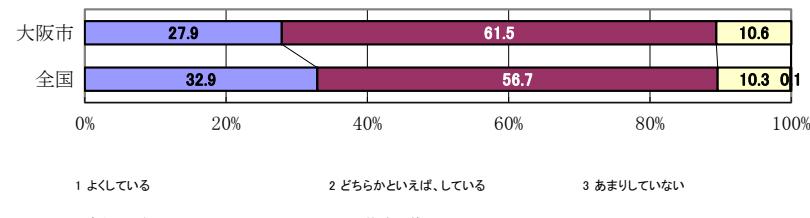
学校 「よくしている」を選択



19

個々の教員が自らの専門性を高めるため、校内外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか(オンラインでの参加を含む)

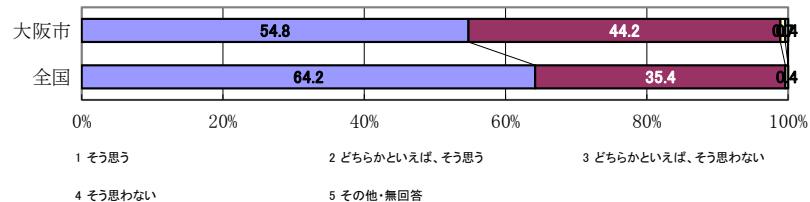
学校 「よくしている」を選択



21

学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員(支援スタッフを含む)の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか

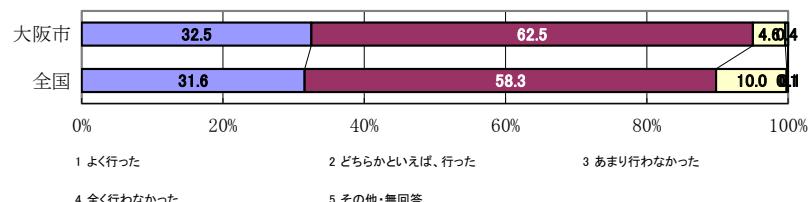
学校 「そう思う」を選択



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

学校 「よく行った」を選択



39

調査対象学年の児童に対して、特別の教科・道徳において、取り上げる題材を児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか

学校 「よくしている」を選択

